

大都会から知床へ

- 胸一杯自然体験の旅-

御学習研究社企画による『秘境知床&サロマ湖 の自然体験教室』が、7月23~26日に実施さ れ、24日に知床森林センターが昨年同様にこの 企画に受託事業として協力しました。



参加者は子供6名夫蝎7組、アメリカの若い男 女学生2名を含む総勢25名の一行で、東京とそ の近辺からの人々です。年齢は子供さんからご老 体まではば広い橇成でした。

当日、元気一杯賑やかな一団は『自然観察教育 林』を歩きました。この森林は、多くの人々に知 床の森を知っていただくために設けられたところ です。そしてこの深い森林内には水が涸れたポン ホロ沼、エゾユズリハの群落、流、巨木、多くの 植物などが次々に展開し、変化に富むコースです。

みなさんは質問し写真を扱り、説明にうなずき ながらゆっくりコースを巡りました。

けもの道を登り下りしながら知床の森を内倒か ら眺め、汗も流して得た体験にみなさんご満悦の ようでした。

☆ 森林と人間社会の関わりを見る ◇

~第6回「森とのふれあい」実施~

30名の参加者を得た『森林教室』「森とのふ れあい」は、7月28日斜里~峰浜の海岸沿いと 知床5湖で行われました。16才から81才まで の年齢構成で北見・概走の両市からの参加です。

今回の主要テーマは人間社会と関わりの深い湖 客防衛保安林・耕地防風保安林のはたらきと、知 床5 湖周辺の環境に適応した樹木や植物が湖水と 相俟ってつくりだした景観を森と親しみながら知 るというものです。

斜里以久科では海岸線から内陸に向って変化す る植物と、潮風に成長を阻害された樹木が示す湖 客防衛のはたらき、東西南北に72m巾の防風保安 林が耕地を季節風から守っているさまを間近かに 観察しました。また営林密が営々と造り上げ、い まは立派にその機能を果たしている湖客防衛保安 林にはみなさん感服のようでした。午後からの知 床5湖は深い霧の中、幻想的なムードに没れまし た。3湖ではネムロコウホネ(スイレン科)が咲 き、霧を透してポーポーとヤマバトの低い声が響 いていました。霧の知床5湖、一風変った舞台設 定にみなさん喜んでおりました。



知床森林センターでは、本年からガイド事業に取組むことになりました。ガ イド場所は「自然観察教育林」内の自然観察コースと、「知床硫賞山新噴火口」

ガイド事業開始 (器構ものがたり)

の登山コースです。参加者は知床のすばらしい自然にじかに触れて、あなた自 身のオリジナル「森林ものがたり」を創って頂く、その案内役を森林インスト ラクターがいたします。知床の自然、原始の面彫を色濃く残している森林はあ なたになにを語りかけてくるでしょう? 森林との対話のチャンスを提供しま す。募集案内用パンフレットもできました。お問い合わせは知床森林センター にどうぞ。

-- 『国際家族年』を冠してEVENT--

「第23回森林レク in知床」は8月13・23 日の両日、国連決議『国際家族年』を冠して「知 床硫質山新噴火口」登山を実施しました。より多 くの家族参加を期待して抽選方式を採り、結果参 加者は両日で家族13組28名を含む56名でし た。今年は知床も異常な暑さで汗だくの登山とな りました。登山道入り口からのいきなりの急坂・ 樹木のトンネルは汗と喘ぎの連続、稜線からは視 界が開けますが、その後四つん選いの岩塊登り・ 火山灰の照り返し・火山礫の急なガレ場登りを経 て新噴火口到着です。酷苦が去ると人は解放感に 没れます。ゆとりの帰路は眼下に展開する知床の 大樹林・白い航跡を聞いた紺青のオホーツク海を 楽しみ、さらに樹木や植物を観察しながら下山し

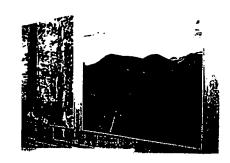
ました。平均斜度15 度1.3km の登山は結 標辛く、登山道入り 口に着いたみなさん はやりました♪とい うように、じつに好 い表情をしていまし た。

後日数数の便りが センターに寄せられ 職員一同心満たされ ました。

大型写真パネル登場

3 位×2.4 毎の大パネルが、知床森林セン ター展示室の南倒大壁に2面貼られました。 緑が木製のカラー写真です。自然観察教育 林を正面から扱ったものと、海岸台地にある 森林内の胸高直径138岁のオヒョウニレに 周囲の木を配して扱ったものです。どちらも ウトロ市街の近くの国有林です。

さきに完成している知床半島立体模型と呼 応して、展示室はぐーんと印象を一新しまし た。訪問客の観覧時間もこれで長引くかも。



人事の異動がありました

8月1日付人事異動で、企画係長の小垣朝 幸氏が北見支周指導計画銀に転出しました。 センターの歩みと共に5年余り、本当にご 苦労さまでした。

後任に国枝豊氏が白滝営林器より転入しま した。今後の活躍を期待します。